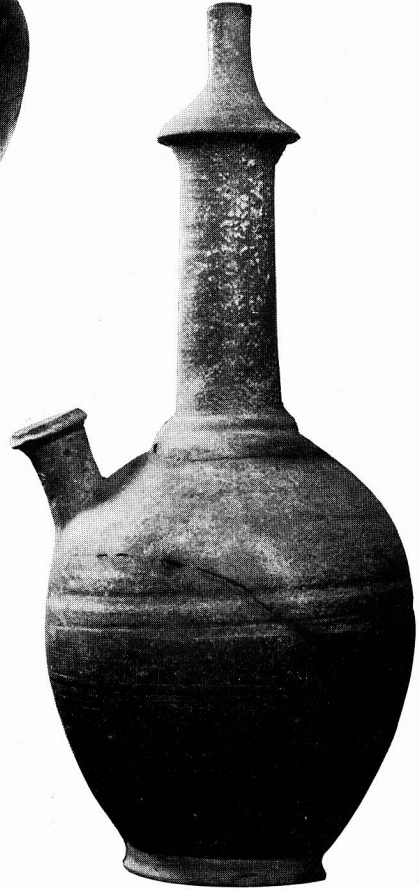


人層ともいうべきものになり、所謂貴族文化が形成されて、墳墓がなお数多く造られるが、横穴式石室というようなものになって、塚を築くということが消えて



真渡の寺田より大正年代出土した土器
(手代木長松蔵)



真渡稻荷宮より出土した須恵器(須恵質の簡素な作りで平安時代のものか)
(手代木長松蔵)

ゆく。この四世紀末より奈良朝の初期までの、陵墓に模して塚を構築した時代を古墳時代といっている。
初期には自然の丘陵などの上に円墳、又は日本独特に考案されたともみられる前の方にやや低い四角の祭壇的なものをつけ、後の円墳となぎあわせたような前方後円墳というものを構築している。会津地方の開発は盆地周縁が早いから、会津若松市の大塚山頂に全長九七・五メートルにも及ぶ前方後円墳がつくられたやがてこれが盆地底にも及んで、会津坂下町の青津に